

体 育



陸上運動

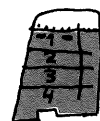
先んずれば人を制す

意味 人より先に行動した者が、有利になるということ。

解説 徒競走で、スタートと同時に猛然とダッシュし、2位以下に圧倒的な差をつけてゴールテープを切る。このように、走るのが速い子どもの様子をあらわすのに、ぴったりのことわざです。「先手必勝」「先行逃げ切り」ということばもありますね。

なにがごとく、はじめが肝心。スタートの時点で他をリードすることができます。サッカーなどの球技においても、先取点が有利にはたらくことは周知のとおりです。

それはまた、「ウサギとカメ」の逸話からもわかるように、「終わりよければすべてよし」という目的に合ったダッシュでなくてはなりません。授業では、慢心したり疲れ切ったりしないための配慮も必要です。



陸上運動

後の雁が先になる

意味 先を行く人を後の人が追いつくこと。

解説 雁は、集団で飛ぶ際にはいくつかの飛行隊形が見られ、後ろを飛んでいる雁が先頭に出ることもあります。そんな様子から生まれたことわざだと思われま。

徒競走で、スタートで出遅れた子どもが、後半にはのびやかに走りきって、逆転したときなどに使えます。下級生が上級生より強くなったとき、権力・地位・財産などについて後輩が先輩を追い越したとき、年少者が年長者より先に亡くなった場合などにも用いることができます。

このように、団体スポーツやクラス内の友達どうしの力関係など、グループダイナミクス（集団力学、社会力学）としてのクラス経営にも、広く援用できることわざです。



陸上運動

百里の道は九十九里を半ばとす

意味 ものごとを成しとげるには最後まで気を引き締めよということ。

解説 中・長距離走では、それまで好調に走ってきた人が、最後の最後になって息切れし、大きく順位を下げてしまうことがよくあります。長丁場の仕事では、あと少しのところまできたからといって気を抜かず、「まだ半分」というくらいの気持ちで取り組みなさい、ということわざです。「百里」は約393kmで、長い道のりを象徴的にあらわしています。マラソンレースの物理的な距離の半分は、心理的な半分や生理的な半分とは異なります。「30キロからがマラソン」「固まってからがマラソン」ともいわれます。なにがごとくにも通じる味わい深いことわざです。

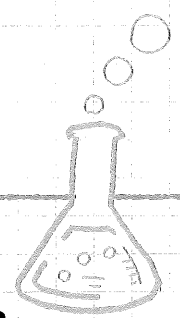
関連 ・勝負は下駄を履くまでわからない

2 日 目

1 時 間 目

S C I E N C E

理 科



$E=mc^2$

H_2O



物理・化学

焼石に水

意味

わずかな支援や努力では、効果が上がらないこと。

解説

1,000℃に熱した1kgの石を、40℃まで水で冷やすとしましょう。そのためには、およそ200kcalの熱をうばう必要があります。計算上では、20℃の水でこの石を冷やすには、石の重さの3分の1の重さの水が必要です。ところが実際には、水をかける際にほとんどの水が飛び散ってしまうので、石の10倍20倍の水が必要となるのです。

そんなことから生まれたのが、「焼け石に水」ということわざです。ものごとをなんとかするためには、想像以上の努力や対応が必要だということですね。

関連

・焼石に雀の涙

物理・化学



身から出たさび

意味

自分の悪い行いや過失の結果、後で災いや苦しみを受けること。

解説

武士が身につけている刀に、手入れ不足からさびが生じ、刀身を腐らせてしまうことからできたことわざです。自分の不始末や過失から生じた災いや苦しみを、さびにたとえているのです。

いわゆる赤さびは、鉄が酸素と化学反応（酸化）して生じた赤色の酸化鉄です。さびを発生させないためには、ふだんから金属の表面に油や防錆塗料を塗って、空気に直接触れないようにする必要があります。

同じ鉄さびでも、火で焼くなどしてできる黒さびは、黒鉄とも呼ばれ、鉄をじょうぶにします。赤さびを防ぐために用いられることもあります。

関連

・自業自得

